

第3次名寄市教育改善プロジェクト委員会の3年目を迎えた令和4年度8月～10月期の取組について、お知らせいたします。

教育経営の充実に関する研究グループ(働き方改革)

今年度の取組

- ①名寄市働き方改革指標「Nayoro Star Action」の実践と効果の検証、改善
- ②各校での働き方改革に係る目標達成を目指した取組の推進と交流
- ③意識調査アンケートの実施と検証

8月～10月期の活動状況

(1) 在校等時間調査について

○在校時間及び時間外勤務時間等の集計を実施。集計結果は、次回の会議で提示。

(2) 意識調査アンケートについて

○意識調査アンケートの作成、検討、実施

アンケート結果詳細については、次回の会議で提示。各学校コアチームを中心に改善が進んでおり、「Nayoro Star Action」の取組の成果が見えてきている。部活動改革との連動を図りながら中学校での取組を推進していくことが重要。

今後の予定

- 在校等時間調査の前年度結果との比較・検証、経年変化及びその考察
- 在校等時間調査、意識調査アンケートの結果を踏まえた「Nayoro Star Action」の検証
- 各校コアチームによる取組を踏まえた「Nayoro Star Action」の検証
- 2年間の取組の総括

教育経営の充実に関する研究グループ(部活動改革)

今年度の取組

- ①各校の部活動の実態把握について
- ②NAYOROスタイル部活動改革に資する調査研究について
- ③部活動指導員研修について
- ④各種大会等に係る調査研究について（名寄市部活動改革推進委員会との連携）

8月～10月期の活動状況

(1) 今後の部活動のあり方

○部活動指導員の導入、配置予定人数の確認、人材バンクの登録

○NAYOROスタイル拠点校方式に係る制度の詳細の検討

(2) 名寄市のNAYOROスタイル部活動改革に係わる推進計画作成

○「単独部活動」「NAYOROスタイル合同部活動」「NAYOROスタイル拠点校方式」「地域スポーツ団体・地域文化団体への移行」に対応する準備と情報共有

【単独部活動】

- ・これまで実施されている学校単独の部活動

【NAYOROスタイル合同部活動】

- ・部員数に関わらず、各校で設置されている部活動が複数校合同で活動する部活動
- ・中体連や各主催団体の規定により、大会への参加が制限される場合がある。

【NAYOROスタイル拠点校方式】

- ・拠点校を指定し、在籍校に設置されていない部活動に参加を希望する生徒が入部する部活動。
- ・中体連や各主催団体の規定により、大会への参加が制限される場合がある。

【地域スポーツ団体・地域文化団体への移行】

- ・学校が主体で運営するのではなく、地域スポーツ団体や地域文化団体が主体で運営する活動
- ・中体連参加については、日本中体連や北海道中体連で検討中。

○市内中学校部活動担当者合同会議による部活動形態に係る検討

○部活動バスの運行上の課題の整理と改善策

○NAYOROスタイル部活動改革に係る課題の整理と解決に資する方策の検討

(3) その他

○第1回部活動指導員研修会の実施

○ICT部活動支援事業の希望確認と実施

○休日の部活動の地域移行に係る情報発信と移行イメージの共有

今後の予定

○第2回部活動指導員研修会の実施

○2年間の取組の総括



教育研究(研修)の充実に関する研究グループ(人材育成)

今年度の取組

- ① スクールリーダーとしての力量を高める研修の充実、学校組織マネジメント研修
- ② 組織的・戦略的な次代を担うスクールリーダーの育成、視察研修
- ③ 小中で連携した教育活動、市内で統一した取組の発信、学年・学級経営案の活用

8月～10月期の活動状況

(1) スクールリーダーとしての力量を高める研修の充実

○第2回スクールリーダー研修会を踏まえた成果と課題の交流及び、今後のスクールリーダーとしての取組の具体化

- ・校内の生徒指導等における暗黙知が大きな問題となってしまうことがあることから、自分と違う価値観が表れたときに、その価値観が表れた背景を知ることが大切。また、価値観について共通理解を深めていくことも大切。
- ・事例から、生徒指導と学力向上は、両輪で動いていることから、学力向上を頑張っているでも生徒指導に問題があれば学力向上に結び付かず、生徒指導を頑張っているでも、共通理解に基づく授業づくりがないと学力の向上は図られない。

(2) 先進的な事例から学ぶ視察研修

○「学校が一体となった先進的な取組等に係る視察研修」として旭川市立朝日小学校を訪問し、管理職、スクールリーダーを中心とした組織的な学校改善の取組を視察

- ・研究や授業づくりには絶対の正解はなく、「失敗したっていい。失敗したときには新しいことを考えていこう」という雰囲気づくりについて、各学校において視察資料等を用いた研修等の推進が大切。

(3) 小中で連携した教育活動、市内で統一した取組の発信

○学年経営案の充実・活用を進める各学校の好事例の交流

- ・各学校における共通する成果は、「統一した取組・継続した取組」であり、教職員及び子どもの安心・安全な居場所をつくるための「認め合う」「高め合う」取組が好循環を生み出していくことを確認。

今後の予定

○スクールリーダーとしての取組に係る成果と課題の明確化

○2年間の取組の総括

教育指導の充実に関する研究グループ(ICT活用)

今年度の取組

- ① ICTを日常的に活用した教育活動の工夫・改善、転入職員向け研修
- ② 個別最適な学びと協働的な学びの実現に資する1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善(含プログラミング教育の充実)
- ③ 教職員のニーズに応じたICT活用研修等の計画的な実施
- ④ 名寄市学校教育情報化推進委員会と連携したICT環境の整備・活用等

8月～10月期の活動状況

(1) ICT活用研修会の実施

- ロイロノートを用いた研修の概要 ①ロイロノートの基本操作の振り返り②シンキングツールの使い方と共有ノートの作り方③小テストやアンケートの具体④実践事例の共有
- グーグルアプリ活用研修 ①更新による変更点の確認②アプリ活用の具体(スプレッドシート、グーグルスライド、ドキュメント、フォーム、ジャムボード)

(2) 学習eポータルとMEXCBTについての学習

- 学習eポータル「L-Gate」と「まなびポケット」の紹介(日々の学びや指導における活用方法)
- 各校、デモアカウントによる試用と選定、名寄市全体として学習eポータルを決定

(3) 今年度のChrome book端末活用の方針について

- 各校の使用状況の調査と名寄市全体としての統一した方針について検討
昨年度から使用していることから、児童・生徒は既に基本的な使い方を習得している。今後は、児童の健康面や不適切な使用が行われないように、名寄市全体としての使用ルール(原則)を作成予定。

(4) ICTを活用した不登校児童への授業支援

- 関係機関と連携したオンライン授業支援について
適応指導教室に通う児童を対象に理科の実験を中心としたオンライン学習を行ったことにより、児童の学習への意欲が高まったり学習内容の理解が深まった。今後に向けて配信するための人員や適応指導教室との事前の調整を丁寧に行うことが重要。

今後の予定

- 1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫について実践事例集の作成
- 2年間の取組の総括



今後の予定

- 12月上旬 各研究グループまとめ
- 12月中旬 名寄市教育研究集会準備
- 1月中旬 令和4年度教育改善プロジェクト答申提出
- 1月24日(火) 名寄市教育研究集会(各研究グループ発表・市教研班研修発表)

